



アップグレード後の作業

- [過去のインストール スクリプトの実行](#) (1 ページ)
- [アップグレード完了の確認](#) (1 ページ)
- [UCSM のファームウェア バージョンの確認](#) (2 ページ)
- [クリーナが実行中であるかどうかの確認](#) (3 ページ)
- [アップグレード後の他の作業](#) (4 ページ)

過去のインストール スクリプトの実行

HX Data Platform インストーラを使用してストレッチ クラスタをインストールした後、インストール後のスクリプトを実行して設定を確定し、vMotion ネットワークを設定します。必要に応じて、このスクリプトを未来の時間に実行することもできます。

1. 管理者ログインを使用して、SSH サーバを介してクラスタ IP (CIP) にログインします。
2. `hx_post_install` コマンドを実行します。
3. 次のプロンプトに従い、必要な情報を入力します。

アップグレード完了の確認

ステップ 1 Cisco UCS Manager にログインして、保留中のサーバ アクティビティが HX ノードに存在しないことを確認します。

[サーバ (Servers)] タブ >、[サーバ (Servers)] > [保留中のアクティビティ (Pending Activities)] タブで、すべてのサーバ アクティビティを確認してください。

ステップ 2 HX ノードが、期待されるファームウェア バージョンに一致することを確認します。

Cisco UCS Manager で、[Equipment] > [Firmware Management] > [Installed Firmware] タブを選択し、正しいファームウェア バージョンであることを確認します。

ステップ 3 SSH を介していずれかのコントローラ VM にログインします。

```
# ssh root@controller_vm_ip
```

ステップ 4 HyperFlex Data Platform バージョンを確認します。

```
# stcli cluster version
```

```
Cluster version: 2.5(1c)
Node HX02 version: 2.5(1c)
Node HX05 version: 2.5(1c)
Node HX01 version: 2.5(1c)
Node HX03 version: 2.5(1c)
Node HX04 version: 2.5(1c)
```

ステップ 5 HX ストレージクラスタがオンラインであり、正常な状態であることを確認します。

```
# stcli cluster info|grep -i health
```

```
Sample output:
healthstate : healthy
state: healthy
storage cluster is healthy
```

ステップ 6 データストアが稼働中であり、ESXi ホストに適切にマウントされていることを確認します。

HX コントローラ VM から:

```
# stcli datastore list
```

ESXi ホストから:

```
# esxcfg-nas -l
```

ステップ 7 アップグレードが完了し、成功したことを確認します。

```
stcli cluster upgrade-status
```

```
Nodes up to date:
[HX-Cluster, HX-Node-1(1.1.1.1), HX-Node-2(1.1.1.2), HX-Node-3(1.1.1.3)]
Cluster upgrade succeeded.
```

ステップ 8 使用するブラウザ インターフェイスごとに、キャッシュを空にしてブラウザ ページをリロードし、HX Connect のコンテンツを更新します。

UCSM のファームウェアバージョンの確認

Cisco UCS Manager で、**[Equipment] > [Firmware Management] > [Installed Firmware]** タブを選択し、正しいファームウェアバージョンであることを確認します。

ハードウェアとソフトウェア間の依存関係の完全なリストについては、[UCS Hardware and Software Compatibility ツール](#)を使用して該当する UCSM リリースを参照してください。

クリーナが実行中であるかどうかの確認

アップグレードが失敗した場合

アップグレードが失敗した場合は、クリーナを実行します。アップグレードを続けないことにしたとしても、この作業は必須です。

クリーナを手動で実行するには、次のコマンドを使用してストレージクラスタ クリーナを再起動します。

```
stcli cleaner start [-h] [--id ID] [--ip NAME]
```

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--id ID	オプション。	ストレージクラスタ ノードの ID。ID は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。
	--ip NAME	オプション。	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。

アップグレードが完了した場合

アップグレードが完了した場合は、クリーナが実行中であるかどうかを確認します。指定のノードのストレージクラスタ クリーナに関する情報を取得するには、次のコマンドを使用します。

```
stcli cleaner info [-h] [--id ID] [--ip NAME]
```

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--id ID	オプション。	ストレージクラスタ ノードの ID。ID は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。
	--ip NAME	オプション。	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。

アップグレード後の他の作業

アップグレードが完了したことを確認したら、Cisco HyperFlex Smart Call Home を有効にします。詳細については、『[Cisco HyperFlex Smart Call Home クイック スタート ガイド](#)』を参照してください。